

# Bishamon® Traver Lift

トラバーリフト

## 油圧手動式

STS15	STS38	ST50(H)	ST80(H)-WW
ST20(H)-WW	STL38(H)	ST50(H)-WN	ST100(H)
STL25	ST38(H)	STL65(H)	ST100(H)-WN
ST25(H)	ST38(H)-WN	ST65(H)	ST100(H)-WW
ST30(H)-WW	STL50(H)	ST80(H)	

## 取扱説明書

このたびは当社製品をお買い上げいただきありがとうございます。  
ご使用前にこの説明書をよく読み、内容を理解してから正しくお使いください。なお、お読みになった後もすぐ取り出せる場所に大切に保管していただき、万一紛失された場合にはすみやかに販売会社にご請求ください。また、製品に貼り付けてある警告シール等が剥がれた場合にもご請求ください。

本説明書は、当製品を安全に使用するための案内書です。本説明書の記載と異なった操作を行った場合、重大事故に結びつくことがあります。不適切な使用により事故が生じた場合、当社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

当製品を譲渡される場合は、次の所有者にこの説明書をお渡しください。

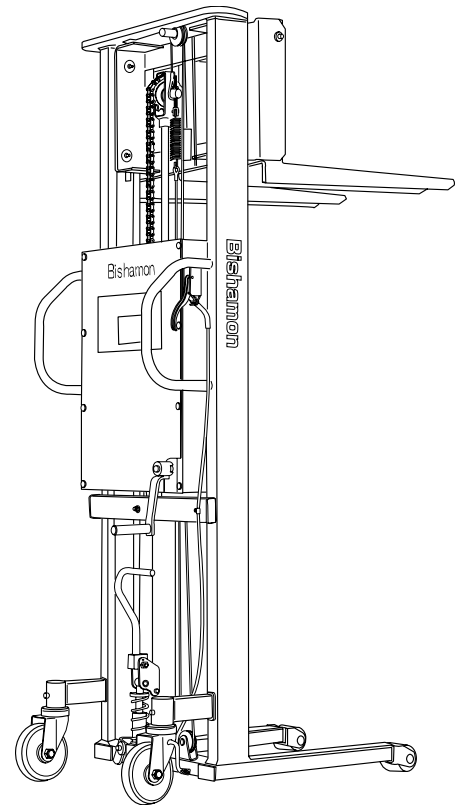
### 【使用環境について】

使用場所……………屋内

周囲温度……………0～40℃ 結露や凍結のないこと

湿度……………35～85%

雰囲気……………可燃性ガス・腐食性ガス・蒸気・粉塵のないこと



## 目次



1 安全上の注意……………	1
2 使用上の注意……………	1
3 標準本体仕様諸元……………	2
4 各部の名称……………	4
5 始業点検……………	4
6 操作方法……………	5
7 油圧回路図……………	7
8 保守点検……………	7
9 故障と対策……………	8
10 廃棄……………	9
11 商品保証規定……………	9
12 アフターサービスについて……………	10

# 1

## 安全上の注意

トラバークリフトをご使用いただく前に、この「安全上の注意」をよくお読みいただき、正しくお使いください。  
※お読みになった後は、いつでも見られる場所に必ず保管してください。


### 用語および記号の説明

 <b>警告</b>	取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。
 <b>注意</b>	取り扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う可能性が想定される場合、および物的な損害の発生が想定される場合。

# 2

## 使用上の注意

 <b>警告</b>		
下記の事項に違反すると重大な人身事故につながりますので必ず守ってください。		
		
取扱説明書をよく読んで理解してから使用してください。	傾斜地ではリフターを使用しないでください。転倒や暴走につながります。	荷物を高い位置にしたまま移動や旋回をしないでください。転倒や荷崩れにつながります。
		
フォークの下に入らないでください。	フォークに過積載しないでください。本体の破損や荷崩れにつながります。	リフターを移動する時には前後に人がいないことを確認してください。
		
人を乗せないでください。人の転倒やリフターの転倒につながります。	フォークの先端では能力が低下します。先端だけに荷重をかけたりしないでください。	段差のある場所では注意してください。転落や転倒の危険があります。
		
走行時ホイールから足を離してください。ひかれて怪我をすることがあります。	チェーン sprocket 部や他の動く部分には手を入れないでください。巻き込まれて怪我をします。	耐用期間(4年)が過ぎたり、痛んだチェーンは交換してください。破断して荷物が落下します。

 <b>注意</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>取扱説明書をよく読んで理解してからご使用ください。誤った操作は事故につながります。</li> <li>本機は定格荷重以下の荷物を荷重曲線の範囲内でフォークによって上昇下降させる移動式のリフターです。本来の目的以外に使用しないでください。</li> <li>本機の使用は使用方法を熟知した人に限定してください。</li> <li>荷物を積んだままフォークを急降下急停止させないでください。衝撃荷重が発生して本機を損傷することがあります。</li> <li>常に荷物の状態には注目し、もし荷物が不安定な状態になったときには操作をやめて荷物を整えてください。荷崩れの危険があります。</li> <li>フォークの上に荷物を移動するときにはブレーキをかけ本機を固定してください。荷物の移動中に本機が不意に移動して、荷物が転落する危険があります。</li> <li>片方のフォークに偏った荷重をかけることはやめてください。本機の破損や荷崩れにつながります。</li> <li>安定性が悪かったり、しっかりと積載されていない荷物には使用しないでください。</li> <li>取扱説明書に従って点検を必ず実施してください。</li> <li>本機を許可なく改造しないでください。</li> <li>フォークで荷物を吊り上げないでください。本機の破損につながります。</li> <li>フォークは均等に広げて使用してください。本機の破損や荷崩れにつながります。</li> <li>移動時にフレームと床の隙間や車輪に足を挟まれないように十分距離をとってください。</li> <li>早送り装置は無負荷で使用してください。</li> <li>修理や点検を行うときにはフォークから荷物を降ろしてから行ってください。修理や点検の作業中の怪我の危険があります。</li> <li>早送りハンドルを使用しない時は必ずハンドルをロールピンから外してください。下降時にハンドルが回転し、危険です。</li> <li>移動時はホイールから足を離してください。引かれて怪我をすることがあります。</li> </ol>

# 3

## 標準本体仕様諸元

※改造品の場合は、別紙仕様図を参照してください。

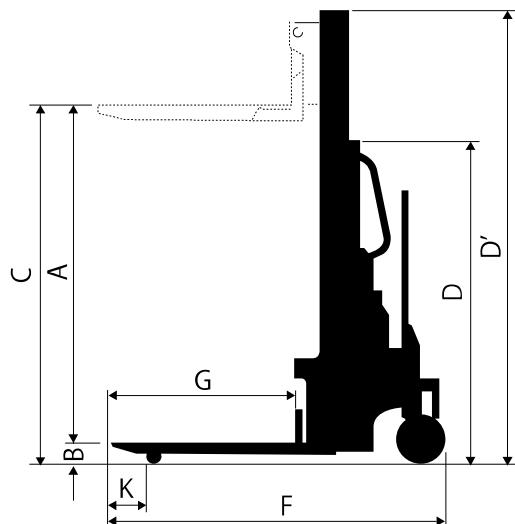
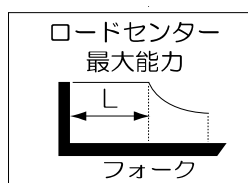
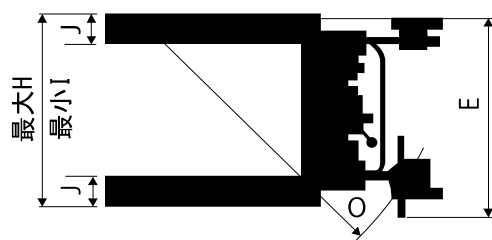
仕様・寸法 ※各寸法の記号はP3 下図参照。

型 式		STS15	ST20WW	STL25	ST25	ST30WW	STS38	STL38
早送り装置付き型式		-	ST20H-WW	STL25H	ST25H	ST30H-WW	-	STL38H
	能力 kg	150	200	250		300	380	
A	揚程 mm	750	1500	1200	1500		750	1200
B	フォーク最低地上高 mm	90						
C	フォーク最高地上高 mm	840	1590	1290	1590	1590	840	1290
D	全高 mm	1233	1966	1592	1893	1966	1261	1666
E	全幅 mm	659	1371	659		1371	683	641
F	全長 mm	1196	1499	998		1507	1306	1099
H	フォーク調整幅最大(外寸) mm	628	558	628		600		558
I	フォーク調整幅最小(外寸) mm	125	232	125		232		
G	フォーク長 mm	750	1000	550		1000	800	600
J	フォーク幅 mm	60	110	60		110		
K	フォーク先端から前輪先端まで mm	277	319	77		234		119
	フォーク最下位の位置	アームの横				アームに被る		
	ポンプ操作回転数(上限まで) 約回	27	53	43	53	71	37	43
	1ストロークのリフト量 mm	28				21	20	28
L	ロードセンター(荷重重心) mm	400	500	300		500	400	300
	アーム外幅 mm	500	1371	500		1371	586	544
	アーム内幅 mm	360	1179	360		1179	394	352
	前輪 mm	80×32	70×73	80×32		70×73		
	後輪 mm	100×32	150×32	100×32		150×32		
O	回転半径 mm	822	1327	822		1413	1026	923
	自重 kg	57	159	62	67	193	135	117
	オイル量 リットル	0.35	0.69	0.55	0.69		0.47	0.55

型 式		ST38	ST38WN	STL50	ST50	ST50WN	STL65	ST65
早送り装置付き型式		ST38H	ST38H-WN	STL50H	ST50H	ST50H-WN	STL65H	ST65H
	能力 kg	380		500			650	
A	揚程 mm	1500		1200	1500		1200	1500
B	フォーク最低地上高 mm	90						
C	フォーク最高地上高 mm	1590		1290	1590		1290	1590
D	全高 mm	1966		1669	1969		1667	1967
E	全幅 mm	641	871	683		871	883	
F	全長 mm	1099		1106			1851	
H	フォーク調整幅最大(外寸) mm	558		600			726	
I	フォーク調整幅最小(外寸) mm	232		232			262	
G	フォーク長 mm	600		600			1200	
J	フォーク幅 mm	110		110			125	
K	フォーク先端から前輪先端まで mm	119		34			352	
	フォーク最下位の位置	アームに被る		アームの横		アームに被る		アームの横
	ポンプ操作回転数(上限まで) 約回	53		57	71		102	127
	1ストロークのリフト量 mm	28		21			12	
L	ロードセンター(荷重重心) mm	300		300			600	
	アーム外幅 mm	544	871	586		871	700	
	アーム内幅 mm	352	679	394		679	500	
	前輪 mm	70×73		70×30				
	後輪 mm	150×32		150×42			200×42	
O	回転半径 mm	923	1014	1026		1103	1484	
	自重 kg	122	132	151	156	166	247	252
	オイル量 リットル	0.69		0.75	0.94		0.98	1.23

仕様・寸法 ※各寸法の記号は下図参照。

型 式		ST80	ST80WW	ST100	ST100WN	ST100WW
早送り装置付き型式		ST80H	ST80H-WW	ST100H	ST100H-WN	ST100H-WW
	能力 kg	800		1000		
A	揚程 mm	1500			1380	
B	フォーク最低地上高 mm	90				
C	フォーク最高地上高 mm	1590			1470	
D	全高 mm	1967				
E	全幅 mm	883	1400	883	934	1371
F	全長 mm	1652		1452		1752
H	フォーク調整幅最大(外寸) mm	726			688	726
I	フォーク調整幅最小(外寸) mm	262				
G	フォーク長 mm	1000		800	1100	
J	フォーク幅 mm	125				
K	フォーク先端から前輪先端まで mm	152				
	フォーク最下位の位置	アームに被る	アームの横	アームに被る	アームの横	
	ポンプ操作回転数(上限まで) 約回	127				117
	1ストロークのリフト量 mm	12				
L	ロードセンター(荷重重心) mm	500		400		550
	アーム外幅 mm	700	1400	700	900	1400
	アーム内幅 mm	500	1200	500	700	1200
	前輪 mm	70×73				
	後輪 mm	200×42				
O	回転半径 mm	1304	1657	1304	1353	1740
	自重 kg	251	276	251	260	330
	オイル量 リットル	1.23				



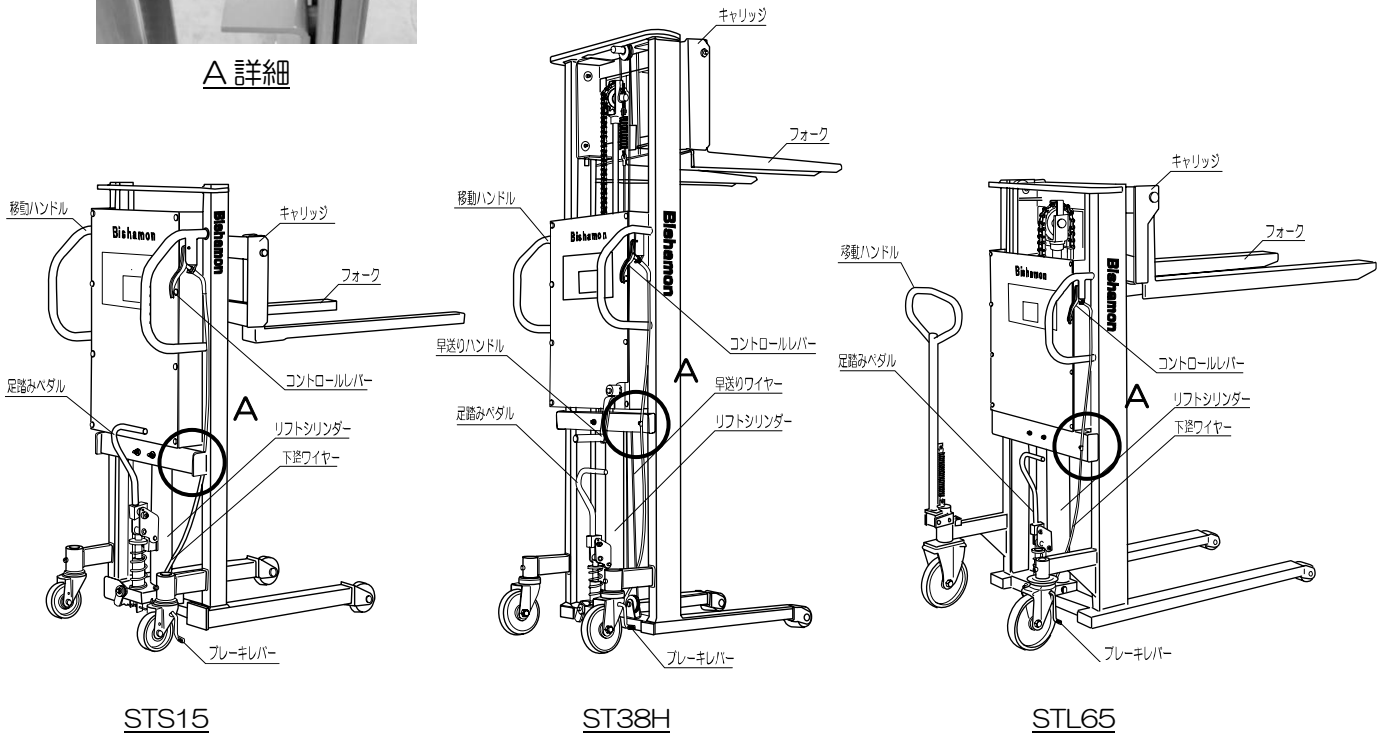
# 4

## 各部の名称



ネームプレート  
型式・能力・製造番号を記載

### A 詳細



STS15

ST38H

STL65

# 5

## 始業点検

点検は本製品を安全にご使用いただくため、また不具合箇所を早期に発見するために大きな役割を果たします。作業を始める前に下記の事項を点検してください。

### ⚠ 注意

異常と思われる箇所が発見された場合は、異常箇所の修復を完全に行うまでリフトの使用を禁止してください。そのままお使いになるとリフトの破損、および事故につながる危険性があります。

毎日作業前に実施してください。

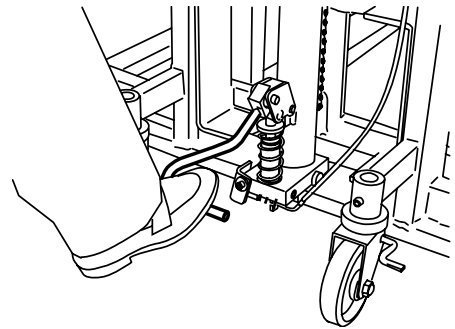
- (1) ポストに傷、曲がり、亀裂などはないか。
- (2) キャリッジやフォークに傷、曲がり、亀裂などはないか。
- (3) 前後輪の動きは良好か。
- (4) 油圧回路やシリンダーからオイル漏れはないか。
- (5) チェーンに傷、キンク、亀裂などはないか。
- (6) 早送り装置用ワイヤーに錆、素線切れはないか。
- (7) 自然降下はないか。
- (8) ブレーキの効きは良好か。
- (9) コントロールレバーを握りフォークを下降させた時、レバーを離すとフォークが止まるか。

# 6

## 操作方法

### 6-1 上昇操作

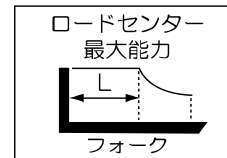
- ① 荷重の中心がフォークの中心になるようにフォークを差し込んでください。
- ② 足踏みペダルを踏むことによりフォークが上昇します。任意の高さまで上昇させてください。



#### ⚠ 注意

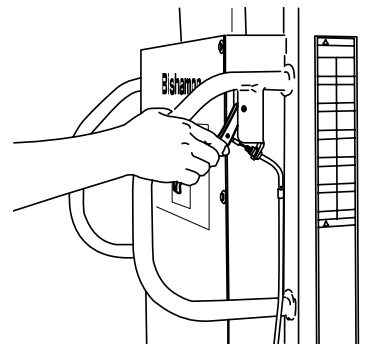
能力以上の荷物を上げないでください。  
また能力以内の荷物でもロードセンター※1よりフォークの先端に荷物の重心がある場合には、十分な能力が出ないばかりか本体を破損するおそれがあります。

※1 ロードセンターとは  
本体の最大能力が  
発揮可能なフォークの根元からの距離です。



### 6-2 下降操作

- ① コントロールレバーを握るとフォークが下降します。コントロールレバーを強く握るとフォークが急下降しますので注意してください。
- ② 任意の高さまたは最下位までフォークが下がったらコントロールレバーから手を離してください。



#### ⚠ 注意

急下降操作は荷崩れなどを引き起こす場合があります危険です。  
移動時にはコントロールレバーに手をかけないでください。

### 6-3 移動

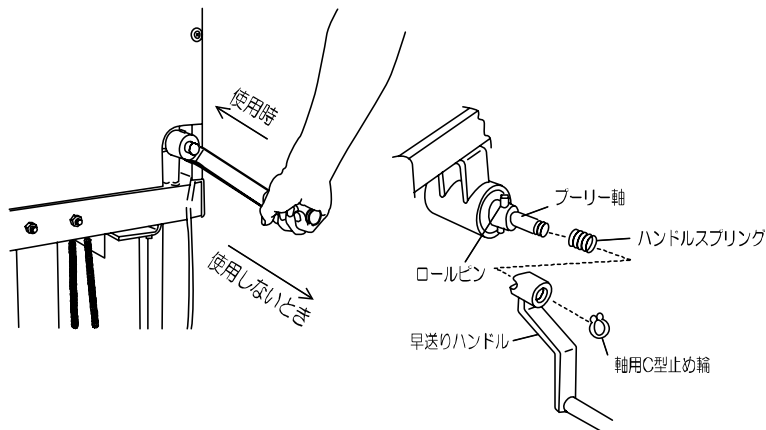
- ① 移動ハンドルを持ってゆっくりと移動させてください。

#### ⚠ 注意

荷物を高い位置にしたまま移動や旋回をしないでください。  
移動時にはコントロールレバーに手がつかないようにしてください。

## 6-4 早送り装置の操作（早送り装置付きのもの）

- ①コントロールレバーに手をかけないでください。
- ②早送りハンドルの切り込み部をシャフトのロールピンにはめて右に回すとフォークが上昇します。
- ③ハンドルを回し終えたら、必ずハンドルをロールピンから外してください。



**警告**

早送りハンドルを回し終えたら、必ずハンドルをロールピンから外してください。操作時や不慮の事故でリフトが下降した際、ハンドルが回転し非常に危険です。巻き込まれて怪我をする可能性があります。



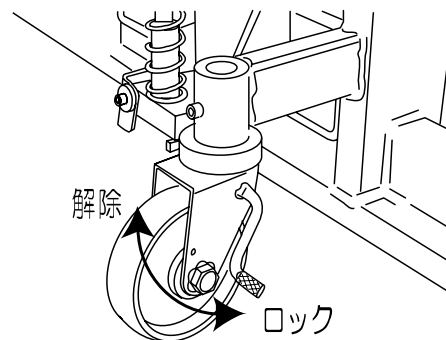
**注意**

早送り装置は必ず無負荷にて使用してください。負荷をかけた状態で使用すると、早送り装置が破損する可能性があります。

## 6-5 ブレーキ操作

本製品が移動しないように右側の自在車輪にブレーキがあります。

- ① ブレーキをかける  
ブレーキレバーを下向きに踏んでください。
- ② ブレーキを解除する  
ブレーキレバーを上向きにつま先で押し上げてください。



**注意**

移動時以外は必ずブレーキをかけてください。不意に移動して事故につながる可能性があります。

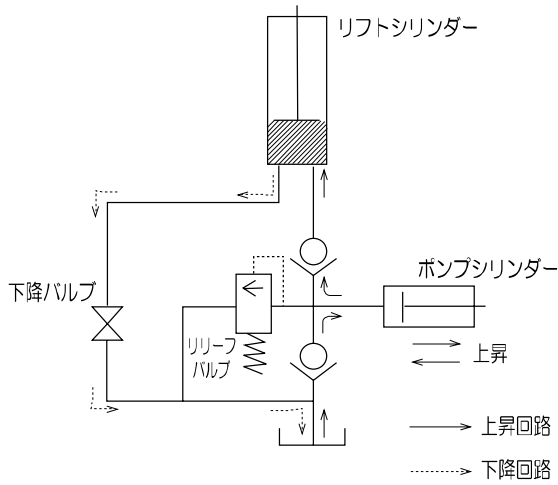
## 6-6 フォーク調整幅

- ① フォークの幅を調整する時は、フォークの先端を少し持ち上げて左右に動かしてください。

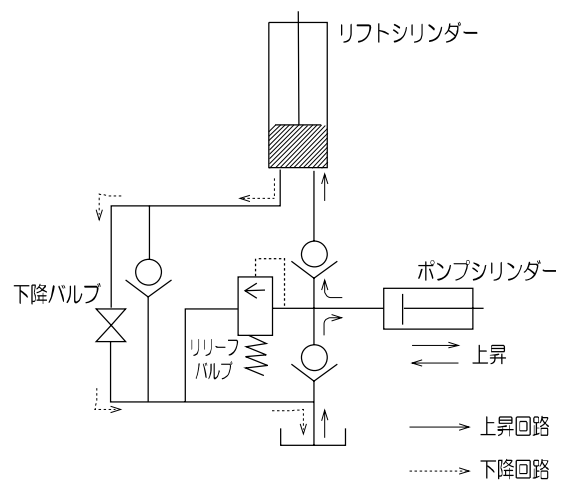
# 7

## 油圧回路図

早送り装置の無いもの



早送り装置付きのもの

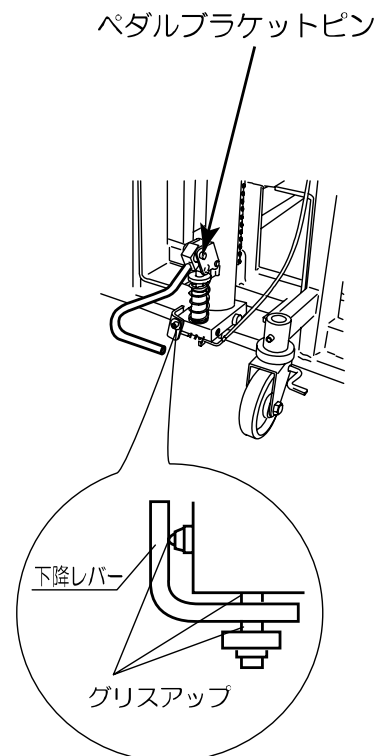


# 8

## 保守点検

安全に使用していただくために必ず保守点検を実施してください。

- (1) チェーンに傷、キンクなどはないか。(1ヶ月毎)
- (2) ポスト内部のローラー摺動部へのグリスアップ(6ヶ月毎)
- (3) ペダルブラケットピンへの給油および各軸への給油(6ヶ月毎)  
(給油箇所は右図参照)
- (4) 作動油の交換(1年毎)
  - 油圧作動油の種類・・・粘度区分 ISO VG32 耐摩耗性油圧作動油  
(作動油量は本体仕様諸元を参照してください)
- (5) 下降レバーのグリスアップ(1週間毎)  
(グリスアップ箇所は右図参照)





## 9

## 故障と対策

ここではご使用になる皆さまが手がけることのできる比較的やさしい故障の処理方法を述べています。その他の故障や不振な点がありましたら、お買い上げいただいた販売会社までご連絡ください。

故障状況	故障原因	対処方法
無負荷にて上昇しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オイルが入っていない</li> <li>●ポンプシリンダーにエアが混入している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●作動油を入れる</li> <li>●エア抜きをする</li> </ul>
上昇するが自然降下する	<ul style="list-style-type: none"> <li>●下降バルブが閉まりきっていない</li> <li>●下降バルブのロワリングバルブ部シート不完全</li> <li>●鋼球のシート不完全</li> <li>●ピストン・ピストンロッド部のOリングの摩耗</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コントロールレバーのワイヤー調整</li> <li>●ロワリングバルブ部の清掃</li> <li>●プラグを外し、鋼球の清掃または取り替え</li> <li>●Oリングの交換</li> </ul>
コントロールレバーを握っても下降しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●下降バルブが開いていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コントロールレバーのワイヤー調整</li> <li>●ロールピンが抜けていたり破損している場合交換</li> </ul>
ポンプピストンからのオイル漏れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ダストシールの不良</li> <li>●Oリングの摩耗</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ダストシールの交換</li> <li>●Oリングの交換</li> </ul>
トップナットからのオイル漏れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ダストシールの不良</li> <li>●Oリングの摩耗</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ダストシールの交換</li> <li>●Oリングの交換</li> </ul>
バルブシートからのオイル漏れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Oリングの摩耗</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Oリングの交換</li> </ul>
下降中コントロールレバーを離しても止まらない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●下降レバーのグリス不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●下降レバーのグリスアップ</li> </ul>

# 10

## 廃棄

本製品の廃棄については鉄鋼材・非鉄材・樹脂材・作動油に分別し、産業廃棄物として処理願います。作動油の処理方法については法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。ご不明の場合は販売会社へ相談のうえ処理してください。

# 11

## 商品保証規定

### 保証規定

取扱説明書、本体注意シール等の注意書きに従って正常な使用状態で保証期間内（納入後3ヶ月以内）に故障した場合は、弊社の責任において無償にて欠陥部品の手直し、修理、取り替え、交換部品の送付をいたします。ただし、二次的に発生する損失の保証および、次の場合に該当する故障は保証いたしておりません。

- (1) 使用上の誤り、保守点検、保管等の義務を怠ったために発生した故障および損傷。
- (2) 商品の作動機構に悪影響を及ぼす変更（改造）を加え、それが原因で発生した故障および損傷。
- (3) 消耗品が損傷し取り替えを要する場合。
- (4) 火災、地震、風水害、その他天災地変等、外部に要因がある故障および損傷。
- (5) 指定された純正部品を使用されなかったことに起因する場合。
- (6) 日本国外で使用される場合。
- (7) 保証請求手続きが不備の場合。（例：型式および機体番号の連絡がない場合 etc.）
- (8) 設置に原因がある故障および損傷。
- (9) 弊社販売会社および弊社以外で行われた修理。
- (10) 酷使・過失または事故によって生じたと認められる故障。

なお、本製品およびその付属品に使用されているゴム部品等のあらゆる自然消耗する部品、ならびに消耗品については保証の適用は除外させていただきます。

本製品は屋外設置および耐水仕様になっておりませんので、錆・腐食・漏電等の水による故障は保証いたしておりません。

### 保証請求方法

上記規定に基づき本製品の保証請求を行う場合は、お買い上げいただいた販売会社までご連絡ください。販売会社において必要な手続きを実施いたします。

なお、保証の可否は勝手ながら弊社において判断させていただきますのでご了承ください。

# 12 アフターサービスについて

調子が悪い時	まずこの取扱説明書をもう一度ご覧になってお調べください。
それでも調子が悪い時	商品保証規定に従い修理いたしますので、お買い上げいただいた販売会社へ修理を依頼してください。
保証期間内の修理について	保証期間は納入後3ヶ月以内です。商品保証規定の記載内容に基づいて修理いたします。
保証期間後の修理について	お買い上げいただいた販売会社へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理させていただきます。
補修用性能部品の保有期間	本製品の補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後10年間です。 (性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です)

アフターサービスについての詳細、その他ご不明な点は、お買い上げいただいた販売会社へお問い合わせください。お問い合わせいただく際には、次のことをお知らせください。

型式・機体番号・購入年月日・故障状況（できるだけ詳しく）

上記事項を下表に記録しておくこと、お問い合わせの際に便利です。

型式		
機体番号	No.	
購入年月日	年 月 日	
購入店名	社名：	担当者：
	住所：	電話：
設置業者	社名：	担当者：
	住所：	電話：
故障日・状況	年 月 日 状況：	



販売会社、または施工業者の方への**お願い**  
この取扱説明書は、必ずお客様にお渡ししてください。



<http://bishamon.co.jp> E-mail:sales@bishamon.co.jp

〒444-1394 本社 愛知県高浜市本郷町4丁目3番地21 tel.0566-53-1126 fax.0566-53-1844  
〒146-0083 東京 東京都大田区千鳥2丁目2番12号 tel.03-3759-9722 fax.03-3759-9723  
〒537-0002 大阪 大阪府大阪市東成区深江南2丁目3番22号 tel.06-6747-7617 fax.06-6747-7618

その他営業拠点 仙台・前橋・広島・福岡

OM-ST 2110@0009-S